

ジオスペース館だより

第740号

令和8年1月1日

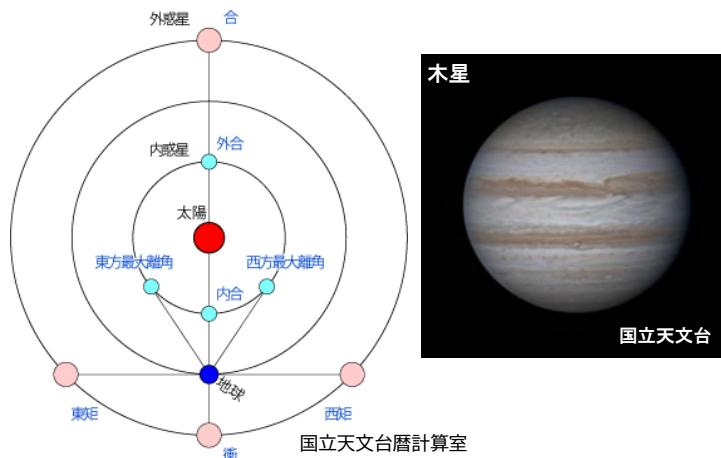
★今月の星もよう★

1月中旬の20時頃、一番明るく輝いているのは木星です。木星はこの時期、東の空のふたご座に位置し、-2.7等の明るさで輝いています。同じく東の空には、88星座の中でとても人気のあるオリオン座があります。3つの明るい2等星が均等に並んだ「三ツ星」が目印で、狩人才オリオンの腰のベルトを表しています。オリオン座の右肩にある赤みがかった1等星ベテルギウスとおおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオンを結ぶと「冬の大三角」となり、その中にはいつかくじゅう座という星座があります。モデルは「ユニコーン」と呼ばれる角が1本ある馬で、想像上の動物です。オリオン座の右下にいるV字の耳が特徴的なうさぎ座も探してみましょう。また、1等星リゲルの上にある星は「クルサ」というエリダヌス座の星です。エリダヌスはギリシャ神話に登場する川の名前で、クルサを出発点としてうねりながらアケルナルという1等星につながりますが、アケルナルは豊川では南の地平線の下に位置しているため見えません。この星を見るためには、沖縄あたりの南の地域まで行く必要があります。



★太陽系最大の惑星木星が衝★

木星は、地球の11倍の赤道半径と318倍の質量をもつ、太陽系最大の惑星です。そんな木星が1月10日に衝を迎えます。衝とは、太陽系の天体が地球から見て太陽とちょうど反対側になる瞬間のことです。衝の頃は地球との距離も近づくので、見かけの大きさも大きく明るく見えます。日の入り頃に東から上り、真夜中に南中し、日の出の頃に沈むので、一晩中見ることができます。望遠鏡で見ると、表面の縞模様や、周囲をまわる多くの衛星の内4つのガリレオ衛星（イオ・エウロパ・ガニメデ・カリスト）も見ることができます。ガリレオ衛星は毎日位置が変化します。望遠鏡を持っている方は、ぜひ観察してみてください。



★2026年注目の天文現象★

2026年の注目の天文現象をご紹介します。事前に観測の予定を立ててみましょう。夏と冬の流星群はそれぞれ好条件です。惑星同士の接近も注目の年です。

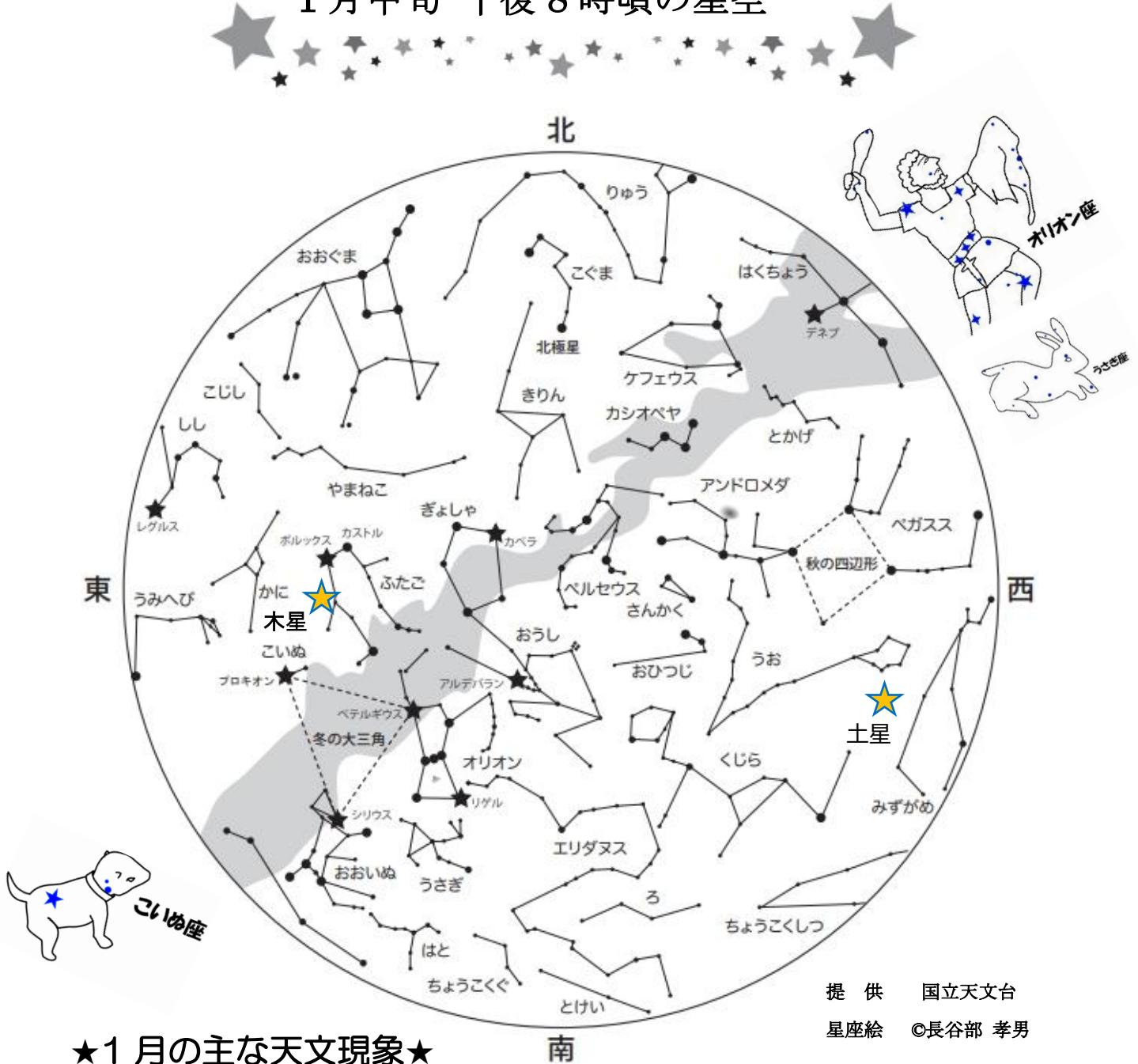
- ・1月4日未明 しぶんぎ座流星群が極大。
- ・1月7日1時頃と3月2日20時頃 しし座の1等星レグルスの食。
- ・3月3日 18時50分頃～22時18分頃 日本全国で皆既月食。
- ・6月16日 月・水星・木星・金星が宵の西の空に並ぶ。
- ・8月13日 ペルセウス座流星群が極大。今年は月明りの影響もなく最高の条件です。

12日の夜から13日の明け方がチャンスです。

- ・12月1日深夜～2日未明 火星・木星・レグルス・月が東の空のしし座で集合。
- ・12月14日 ふたご座流星群が極大。月齢5の月が沈む21時以降が観察の好条件です。

☆1月のプラネタリウムの内容については、別刷りの「投影案内」をご覧ください
☆プラネタリウムのお休み 1/1(木)～5(月)、13(火)、19(月)、21(水)、26(月)

1月中旬 午後8時頃の星空



★1月の主な天文現象★

3日(土) 満月 ウルフムーン

4日(日) 未明にしぶんぎ座流星群極大

6日(火)～7日(水) 深夜 しし座のレグルス食

もくせい しゅう
木星が衝

11目(目) 下弦

19日(月) 新月

じょうげん
上弦

イベント情報

じょうはつ
べント情報

ちゅうおうとしょかん
(中央図書館2階事務室で受付)

ほしそらかんぼうかい
★とよかわ星空観望会

2/14(土) 18:30~20:30
講師：中島健次氏

講師：中島健次氏
かいじょう あかつかやまこうえん
会場：赤塚山公園わくわくパーク

さんかりょう
参加料：1人 400 円

申込：1/15(木)～1/18

※応募多数の場合は抽選
選出

★星兄のプラネタリウム 笑

2/22(日) 前半の部 13:00~、
後半の部 15:00~

かいせつ
解説・星口

肝丼・生儿

チケット販売：^{はんばい}1/15(木)～